

石が結んだ縁



新酒「名古屋城の礎」を手にする山崎厚夫社長＝幡豆町で

本丸御殿復元合わせ 新酒「名古屋城の礎」

名古屋城天守台の石垣にのPRに一役買いそろう。幡豆町の石が使われている。新酒は今年五月、名古屋にちなんだ新酒「名古屋」市内で開かれた本丸御殿PR屋城の礎」が、同町内の酒造会社「山崎」から発売さされた。復元が計画されている名古屋城の本丸御殿と町

幡豆の酒蔵

口の純米酒に仕上げた。石垣には、幡豆町各所でみられる花こう岩「幡豆石」を使用。硬くて重いのが特徴で、町内の八貫山頂付近の石切り場にある巨石から、名古屋城の石垣と同じ刻印が見つかった。

新酒は、ワインボトルのようなスリムな黒い瓶入り。ラベルには、名古屋城と築城に携わった武将加藤清正の像が印刷されている。瓶の入ったクリアケースの中敷きにも、名古屋城の幡豆石について説明がある。五百円入り、千五百円。問い合わせは、山崎へ。電話0563(62)2005

(広中康晴)

本丸御殿復元着手 記念の清酒を発売

幡豆の蔵元

名古屋城本丸御殿の復元に今年度着手するのを記念して、幡豆町の蔵元・山崎合資会社(山崎厚夫代表社員)が清酒「名古屋城の礎」を造った。写真。名古屋

・栄のオアシス21で11、12日に開催される「名古屋城本丸御殿 秋のPRイベント」会場で発売される。

名古屋城天守閣の石垣にある「違い山形」「生駒車」と同じ刻印のうがたれた石が、幡豆町の八貫山頂付近にあり、名古屋城を築いた肥後藩主・加藤清正が同山で石を採ったことが3年ほど前に分かった。これが縁となって名古屋と幡豆の交流が始まり、同社に記念酒の発注があった。

名古屋城の礎はアルコール分16度、県農業総合試験場安城農業技術センターが酒米として開発した「若水」を100%使っている。500円・500円入り1本1050円。

